

令和3年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	兵庫県		市町村類型	IV-3	指定団体等の指定状況		区分		令和3年度(千円)	令和2年度(千円)	区分		令和3年度(千円・%)	令和2年度(千円・%)	
					財政健全化等	×	歳入総額	96,044,530			104,259,224	実質収支比率			2.5
市町村名	伊丹市		地方交付税種地	2-9	財源超過	×	歳出総額	93,970,500	102,532,971	経常収支比率	89.2	93.2	(95.1)	(99.4)	
					首都	×	歳入歳出差引	2,074,030	1,726,253	(※1)					
					近畿	○	翌年度に繰越すべき財源	969,017	553,425	標準財政規模	44,761,494	42,999,931			
					中部	×	実質収支	1,105,013	1,172,828	財政力指数	0.81	0.83			
人口	令和2年度国調(人)	198,138	産業構造(※5)		過疎	×	単年度収支	-67,815	402,416	公債費負担比率	13.4	13.5			
	平成27年度国調(人)	196,883			山振	×	積立金	1,036,337	387,363	健全化判断比率					
	増減率(%)	0.6			低開発	×	積立金取崩し額	113,921	1,275,812	実質赤字比率	-	-			
住民基本台帳人口(※7)	令04.01.01(人)	202,978	第1次	令和2年度国調	555	平成27年度国調	593	指数表選定	○	実質単年度収支	1,574,901	271,067	連結実質赤字比率	-	-
	うち日本人(人)	199,947			0.7	0.7									
	令03.01.01(人)	200,338	第2次		18,676	21,780				基準財政収支	26,197,208	27,368,450	資金不足比率(※4)		
	うち日本人(人)	200,338			24.2	26.3					基準財政需要額	33,813,476		33,112,663	
	増減率(%)	-0.3	第3次		58,089	60,302					標準税収収入額等	33,181,582		34,657,483	
	うち日本人(%)	-0.2			75.1	72.9					経常経費充当一般財源等	41,431,623		39,909,808	
面積(km ²)	25.00									歳入一般財源等	55,461,517	52,916,499			
人口密度(人/km ²)	7,926														
世帯数(世帯)	82,481														
職員の状況															
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	64,467,284	60,783,525				
	市区町村長	1	9,531		一般職員	1,226	3,816,538	3,113	うち公的資金	55,711,482	52,149,140				
	副市区町村長	1	8,227		うち消防職員	205	613,360	2,992	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	33,864,705	29,650,472				
	教育長	1	7,250		うち技能労務職員	21	69,363	3,303	債務負担行為額(支出予定額)	17,751,892	24,656,323				
	議会議長	1	7,200		教育公務員	111	390,711	3,520	収益事業収入	800,000	600,000				
	議会副議長	1	6,460		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	1,000,913	1,000,378				
	議会議員	26	5,840		合計	1,337	4,207,249	3,147	積立金現在高	5,891,568	4,969,152				
					ラスバイレ指数				100.0	財政調整基金	11,476,913	6,490,941			
										減債基金	7,955,837	8,596,281			
										その他特定目的基金					
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧										
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名		(※3)		
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険事業特別会計	(5)	水道事業会計	(11)	丹波少年自然の家事務組合	(15)	楠衝文庫						
		(3)	介護保険事業特別会計	(6)	工業用水道事業会計	(12)	後期広域連合(一般会計)	(16)	いたみ文化・スポーツ財団						
		(4)	後期高齢者医療事業特別会計	(7)	交通事業会計	(13)	後期広域連合(特別会計)	(17)	伊丹まち未来						
				(8)	病院事業会計	(14)	豊中市伊丹市クリーンランド	(18)	伊丹市社会福祉協議会						
				(9)	下水道事業会計										
				(10)	モーターボート競走事業会計										

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比
地方税	31,539,663	32.8	28,658,609	65.8
地方譲与税	1,177,406	1.2	1,177,406	2.7
利子割交付金	27,809	0.0	27,809	0.1
配当割交付金	282,860	0.3	282,860	0.6
株式等譲渡所得割交付金	335,241	0.3	335,241	0.8
分離課税所得割交付金	-	-	-	-
地方消費税交付金	4,299,547	4.5	4,299,547	9.9
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	-	-	-	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-
自動車税環境性能割交付金	48,785	0.1	48,785	0.1
法人事業税交付金	287,244	0.3	287,244	0.7
地方特例交付金等	463,136	0.5	463,136	1.1
個人住民税減収補填特例交付金	208,579	0.2	208,579	0.5
自動車税減収補填特例交付金	13,602	0.0	13,602	0.0
軽自動車税減収補填特例交付金	4,317	0.0	4,317	0.0
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	236,638	0.2	-	-
地方交付税	8,096,986	8.4	7,616,268	17.5
普通交付税	7,616,268	7.9	7,616,268	17.5
特別交付税	480,718	0.5	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-
(一般財源計)	46,558,677	48.5	43,196,905	99.2
交通安全対策特別交付金	32,585	0.0	32,585	0.1
分担金・負担金	492,825	0.5	-	-
使用料	1,532,532	1.6	323,980	0.7
手数料	109,616	0.1	-	-
国庫支出金	23,579,424	24.6	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	6,074	0.0	6,074	0.0
都道府県支出金	5,639,852	5.9	-	-
財産収入	928,956	1.0	8,123	0.0
寄附金	89,362	0.1	-	-
繰入金	1,324,560	1.4	-	-
繰越金	1,726,253	1.8	-	-
諸収入	2,967,608	3.1	18,634	0.0
地方債	11,056,206	11.5	-	-
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-
うち猶予特例債	-	-	-	-
うち臨時財政対策債	2,877,606	3.0	-	-
歳入合計	96,044,530	100.0	43,555,320	100.0

地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	収入済額	構成比	超過課税分	
普通税	28,649,172	90.8	436,329	
法定普通税	28,649,172	90.8	436,329	
市町村民税	13,449,292	42.6	436,329	
個人均等割	345,255	1.1	-	
所得割	11,303,387	35.8	-	
法人均等割	599,744	1.9	98,650	
法人税割	1,200,906	3.8	337,679	
固定資産税	13,685,404	43.4	-	
うち純固定資産税	13,501,078	42.8	-	
軽自動車税	253,463	0.8	-	
市町村たばこ税	1,261,013	4.0	-	
鉱産税	-	-	-	
特別土地保有税	-	-	-	
法定外普通税	-	-	-	
目的税	2,890,491	9.2	-	
法定目的税	2,890,491	9.2	-	
入湯税	9,437	0.0	-	
事業所税	-	-	-	
都市計画税	2,881,054	9.1	-	
水利地益税等	-	-	-	
法定外目的税	-	-	-	
旧法による税	-	-	-	
合計	31,539,663	100.0	436,329	

区分	令和3年度	令和2年度
徴収率(%)	99.6	99.0
現・計	99.4	98.6
市町村民税	99.4	98.6
純固定資産税	99.6	98.0

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	9,892,891	実質収支	416,270
下水道	1,776,488	再差引収支	236,524
病院	1,066,376	加入世帯数(世帯)	24,129
交通	210,074	被保険者数(人)	36,386
上水道	41,354	被保険者	98
国民健康保険	1,647,977	1人当り	1
その他	5,150,622	保険税(料)収入額	356
		国庫支出金	
		保険給付費	

歳出の状況 (単位 千円・%)					
目的別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	486,317	0.5	-	486,317	
総務費	15,891,258	16.9	3,967,942	11,753,995	
民生費	41,583,000	44.3	2,167,259	16,053,392	
衛生費	7,175,885	7.6	536,817	4,539,013	
労働費	175,756	0.2	-	134,239	
農林水産業費	88,339	0.1	-	69,606	
商工費	1,215,698	1.3	1,596	827,697	
土木費	5,767,774	6.1	1,985,925	3,840,756	
消防費	2,086,613	2.2	180,603	1,896,153	
教育費	11,650,365	12.4	4,050,837	6,161,376	
災害復旧費	-	-	-	-	
公債費	7,639,197	8.1	-	7,414,645	
諸支出金	210,298	0.2	-	210,298	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	93,970,500	100.0	12,890,979	53,387,487	

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	50,168,300	53.4	26,766,532	25,255,681	54.4
人件費	13,861,081	14.8	11,976,430	11,797,067	25.4
うち職員給	8,608,622	9.2	7,729,261	-	-
扶助費	28,668,024	30.5	7,375,459	6,764,271	14.6
公債費	7,639,197	8.1	7,414,643	6,694,343	14.4
元利償還金	7,638,465	8.1	7,413,913	6,693,613	14.4
うち元金	7,372,447	7.8	7,164,978	6,444,678	13.9
うち利子	266,018	0.3	248,935	248,935	0.5
一時借入金利子	730	0.0	730	730	0.0
その他の経費	30,911,221	32.9	24,683,528	16,175,942	34.8
物件費	10,677,198	11.4	6,829,042	6,045,296	13.0
維持補修費	291,163	0.3	267,202	250,624	0.5
補助費等	6,313,927	6.7	5,725,536	4,591,471	9.9
うち一部事務組合負担金	695,559	0.7	695,559	693,024	1.5
繰入金	6,798,159	7.2	5,361,124	5,288,551	11.4
積立金	6,574,000	7.0	6,500,624	-	-
投資・出資金・貸付金	256,774	0.3	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	12,890,979	13.7	1,937,427	-	-
うち人件費	231,569	0.2	231,569	-	-
普通建設事業費	12,890,979	13.7	1,937,427	-	-
うち補助	3,994,005	4.3	268,270	-	-
うち単独	8,830,130	9.4	1,655,413	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	93,970,500	100.0	53,387,487	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和3年度 兵庫県伊丹市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

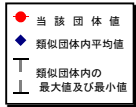
会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	96,045	93,971	2,074	1,105	2,125	64,600	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							
298							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

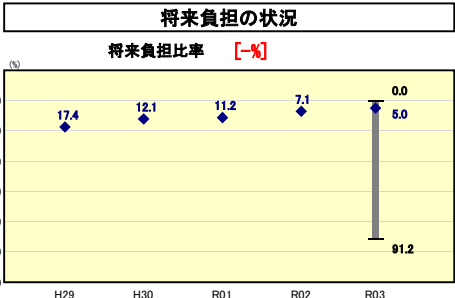
令和3年度

兵庫県伊丹市

人口	202,978	人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	199,947	人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	25.00	km ²	実質公債費比率	4.5	%
歳入総額	96,044,530	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	93,970,500	千円	市町村類型	H29 IV-3 H30 IV-3 R01 IV-3	
実質収支	1,105,013	千円	(年度毎)	R02 IV-3 R03 IV-3	
標準財政規模	44,761,494	千円			
地方債現在高	64,467,284	千円			



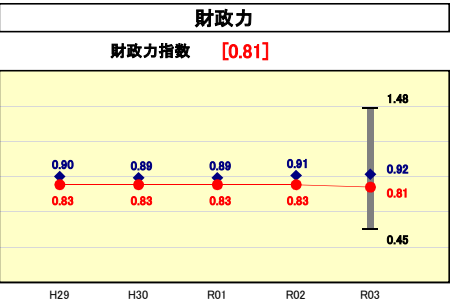
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 1/36 全国平均 15.4 兵庫県平均 30.7

将来負担比率の分析欄

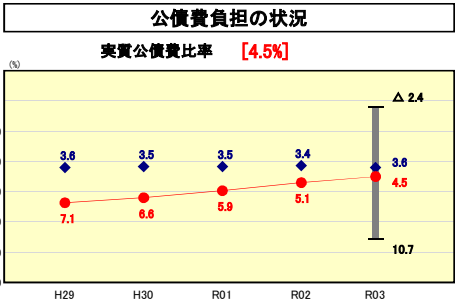
公営企業（主に下水道事業）における企業債償還の進捗により、企業債残高が減少し繰入見込額が減少した事や、公共施設及び公用施設の整備・保全に伴う将来の公債費対策として、減債基金の積立を行い、充当可能基金が増加した事により比率が低下したものと考えられる。
 将来負担比率は従前より全国の平均値を下回る状況にあることから、今後も突発的な事象がない限り、早期健全化基準はクリアできるものと考えている。



類似団体内順位 28/36 全国平均 0.50 兵庫県平均 0.60

財政力指数の分析欄

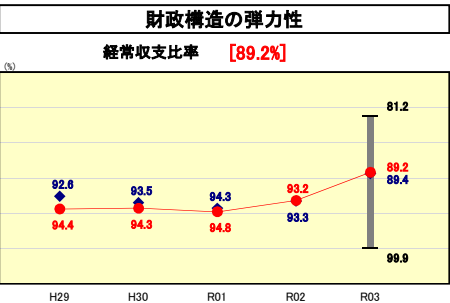
令和3年度の類似団体内順位においては、前年度とほぼ横ばいとなったものの、全国・県平均と比較しても平均値を上回っている。
 数値自体については、伊丹市行財政プランの方針に基づいた歳出の徹底的な見直し、及び税収等の徴収率向上対策を中心とした歳入確保に努めた結果、横ばいを保っている。



類似団体内順位 20/36 全国平均 5.5 兵庫県平均 5.8

実質公債費比率の分析欄

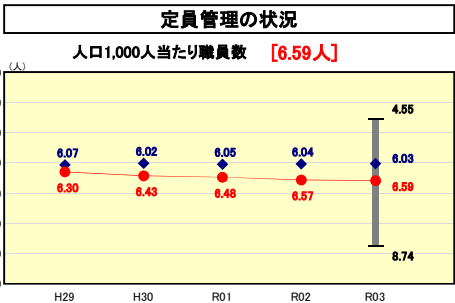
令和3年度においては、公共施設の再配置整備の実施に伴い元利償還金が増加した一方、標準財政規模や公債費充当一般財源等が増加したことにより、単年度の実質公債費比率が4.3%と改善したことなどから、3ヵ年平均における実質公債費比率も改善している。



類似団体内順位 18/36 全国平均 88.9 兵庫県平均 91.1

経常収支比率の分析欄

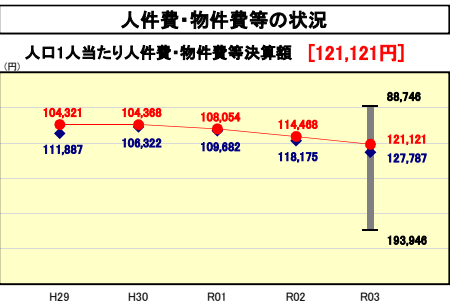
阪神淡路大震災の影響を受けた平成7年度に90%を超えて以降、平成8年度、平成9年度を除き、経常収支比率90%以上の高い水準で推移している。そうした中、平成22年度に策定した伊丹市行財政プランにおいて、平成27年度までに経常収支比率95%以下という目標を掲げ、目標達成に向けて不断の歳出削減努力等を行った結果、目標を達成した。
 令和3年度の経常収支比率については、歳出面で扶助費、公債費が増加した一方で、歳入面で普通交付税、地方譲与税、地方消費税交付金等が増加したため、



類似団体内順位 26/36 全国平均 8.21 兵庫県平均 8.54

人口1,000人当たり職員数の分析欄

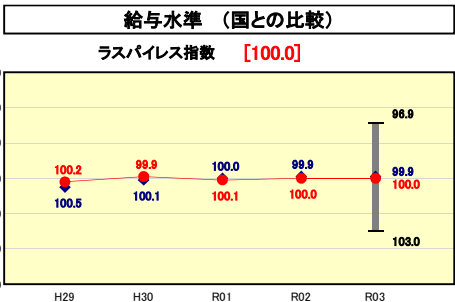
平成25年度までは類似団体との比較において、やや上位で推移していたが、平成26年度以降、再任用職員のフルタイム化に伴い、やや順位を下げる結果となっており、その後は横ばいで推移している。



類似団体内順位 15/36 全国平均 155,088 兵庫県平均 156,083

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

類似団体内順位については、ほぼ変動のない位置にいると考える。また、数値についてはこれまでに引き続き、全国・県平均よりも低い水準で推移している。
 人件費については、新型コロナウイルス感染症予防接種に伴う会計年度任用職員の増による報酬の増等により、物件費については新型コロナウイルス感染症の予防接種委託料の増によりそれぞれ増加したと分析している。



類似団体内順位 21/36 全国市平均 98.8 全国町村平均 96.3

ラスパレス指数の分析欄

昭和50年代の職員採用休止措置に伴う特異な職員年齢構成や、学歴によらず職員の能力・職務実績を重視した昇任管理を行っていることなどの事情により高い水準となっていた。
 平成27年度の給与制度の総合的見直し時に、一般行政職の給料表について国家公務員の見直し（平均2%の引き下げ）を上回る一律4%の引き下げを実施し、平成28年度の昇任制度の見直しに伴う、中高年齢層の給与水準の抑制による効果が現れ、近年は低下傾向にある。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

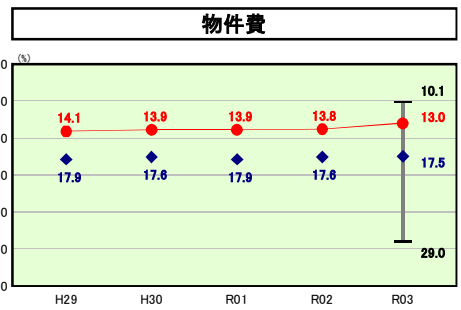
兵庫県伊丹市

経常収支比率の分析

人口	202,978人	(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	199,947人	(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	25.00km ²		実質公債費比率	4.5%
歳入総額	96,044,530千円		将来負担比率	-%
歳出総額	93,970,500千円			
実質収支	1,105,013千円			
標準財政規模	44,761,494千円			
地方債現在高	64,467,284千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

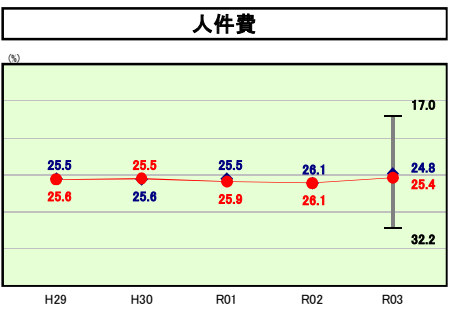
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 7/36 全国平均 13.8 兵庫県平均 11.7

物件費の分析欄

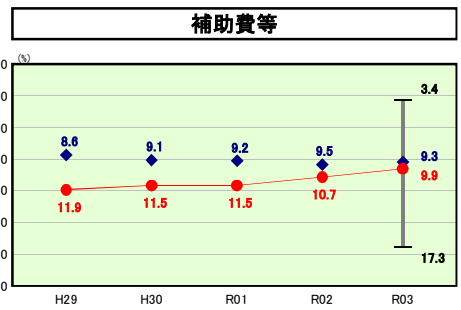
従来より、ごみ処理業務等の一部事務組合で行っていることにより物件費は、類似団体平均よりやや低い水準にある。
歳出面において、委託料の増等により前年度よりも増加しているが、歳入面において、経常一般財源が増加したことにより率は減少している。



類似団体内順位 22/36 全国平均 25.2 兵庫県平均 27.9

人件費の分析欄

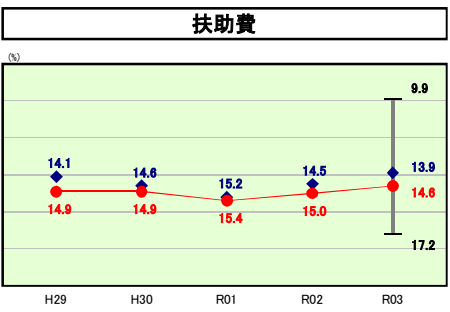
平成19年度の給与構造改革（給料表を平均4.8%引き下げ）をはじめとして、地域手当支給率の引き下げや住居手当の減額改定、そして人事院勧告に沿った給与改定及び期末勤勉手当の年間支給割合の引き下げなど給与等の適正化に努めた結果、概ね類似団体順位は中位を保ってきた。
歳出面において、職員数の増及び退職手当の増により、前年度よりも増加しているが、歳入面において、経常一般財源が増加したことにより率は減少している。



類似団体内順位 20/36 全国平均 10.2 兵庫県平均 9.8

補助費等の分析欄

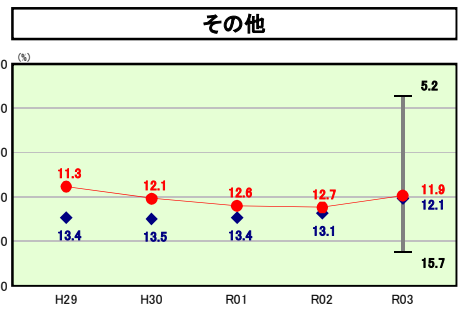
当該数値は一貫して類似団体平均値に比べて高い。要因は、ごみ処理業務等の一部事務組合で行っていること、下水道事業を公営企業で行っていることがあげられる。
歳出面において、交通事業会計、病院事業会計への補助が減少したことにより、前年度とほぼ横ばいの金額となったが、歳入面において、経常一般財源が増加したことにより、率は減少している。



類似団体内順位 22/36 全国平均 12.0 兵庫県平均 12.4

扶助費の分析欄

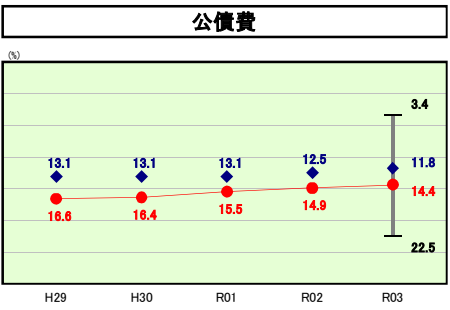
類似団体平均、国・県平均からみても依然高い水準にとどまっている。
歳出面において、利用者の増による保育所保育委託料、障害児通所給付費・措置費、障害福祉サービス費が増加しているが、歳入面において、経常一般財源が増加したことにより率は減少している。



類似団体内順位 15/36 全国平均 12.0 兵庫県平均 11.9

その他の分析欄

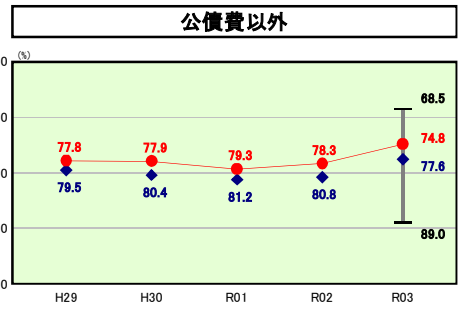
当該数値は一貫して類似団体平均値に比べて低い水準で推移してきた。要因は平成21年度から、下水道事業の会計制度を移行（特別会計から公営企業会計）したことなどがあげられる。



類似団体内順位 25/36 全国平均 15.7 兵庫県平均 17.4

公債費の分析欄

これまで、阪神淡路大震災の災害復旧事業債の償還の影響から類似団体内順位は低位であったが、償還が進捗するにつれて改善している。
近年は、臨時財政対策債に係る元利償還金の増加により横ばいで推移していたが、地方債償還のピークは過ぎ、令和3年度についても低下している。
一方で、今後は庁舎の整備や施設の大規模改修、公共施設の再配置等に伴い、公債費の増加が見込まれることには留意する必要があると



類似団体内順位 12/36 全国平均 73.2 兵庫県平均 73.7

公債費以外の分析欄

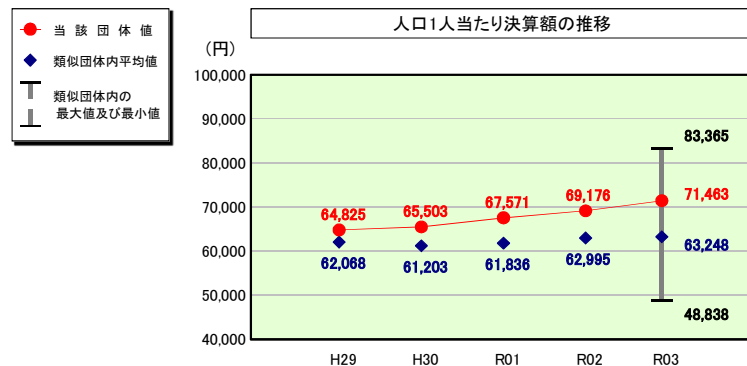
近年は、人件費の削減、扶助費の増加など、個々の経費の増減が結果として全体の均衡を保っている状況にあり、類似団体平均よりも低い水準で推移している。
歳出面において、人件費、扶助費の増加により公債費以外の金額は増加しているが、歳入面において、経常一般財源が増加したことにより、率は減少している。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

兵庫県伊丹市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

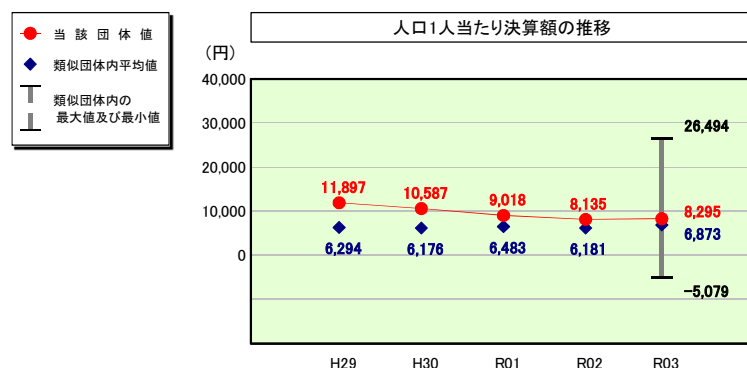
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	13,861,081	68,289	61,144	11.7
一部事務組合負担金(補助費等)	135,848	669	1,318	▲ 49.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	279,807	1,379	986	39.9
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	36	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	473,305	2,332	2,152	8.4
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	231,569	1,141	1,296	▲ 12.0
▲退職金	▲ 476,094	▲ 2,346	▲ 3,683	▲ 36.3
合計	14,505,516	71,463	63,248	13.0

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.59	6.03	0.56
ラスバイレス指数	100.0	99.9	0.1

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

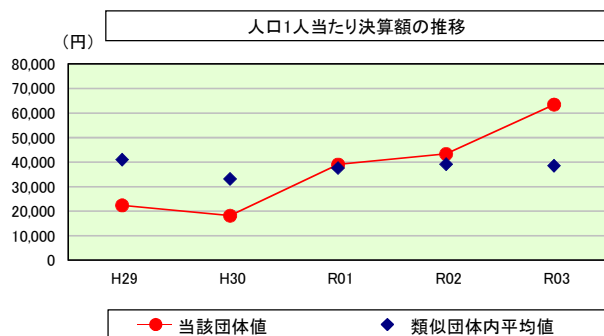


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	6,949,054	34,236	26,067	31.3
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	0	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	31	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,833,891	9,035	5,447	65.9
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	218,713	1,078	447	141.2
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	21,191	104	1,408	▲ 92.6
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	0	-
▲特定財源の額	▲ 2,023,381	▲ 9,968	▲ 7,310	36.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 5,315,817	▲ 26,189	▲ 19,218	36.3
合計	1,683,651	8,295	6,873	20.7

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

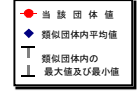
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H29	4,533,185	22,420	▲ 36.8	41,080	3.0	▲ 39.8
うち単独分	2,255,221	11,154	▲ 56.8	27,265	4.2	▲ 61.0
H30	3,699,504	18,201	▲ 18.8	33,173	▲ 19.2	0.4
うち単独分	2,522,242	12,409	11.3	20,353	▲ 25.4	36.7
R01	7,952,223	39,070	114.7	37,644	13.5	101.2
うち単独分	6,173,724	30,332	144.4	24,939	22.5	121.9
R02	8,832,211	43,400	11.1	39,221	4.2	6.9
うち単独分	5,885,538	28,920	▲ 4.7	24,821	▲ 0.5	▲ 4.2
R03	12,890,979	63,509	46.3	38,566	▲ 1.7	48.0
うち単独分	8,830,130	43,503	50.4	24,059	▲ 3.1	53.5
過去5年間平均	7,581,620	37,320	23.3	37,937	0.0	23.3
うち単独分	5,133,371	25,264	28.9	24,287	▲ 0.5	29.4

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

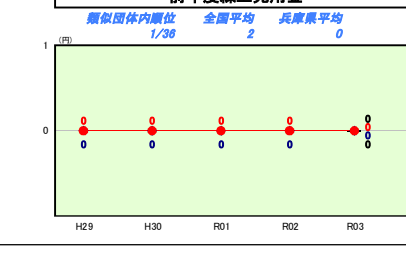
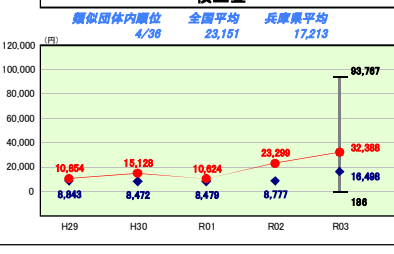
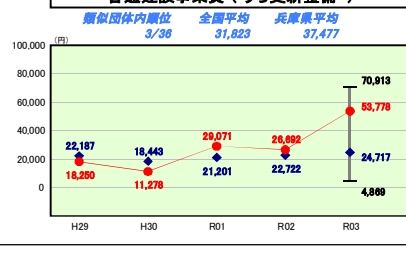
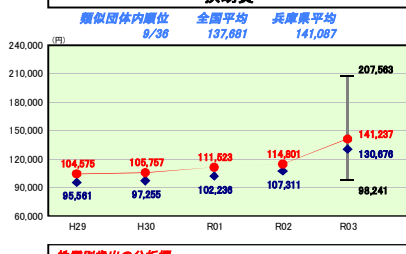
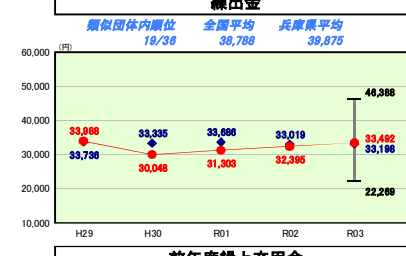
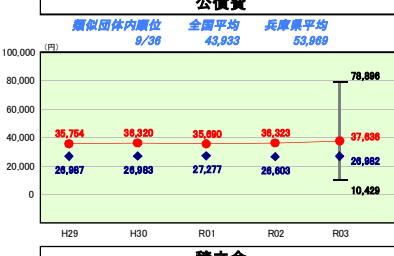
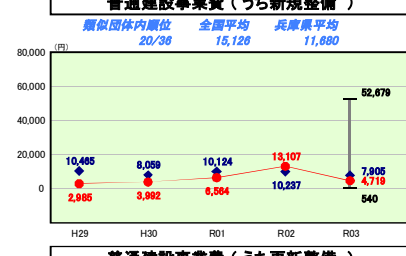
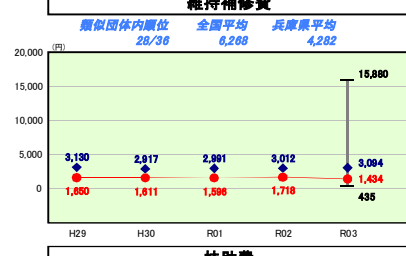
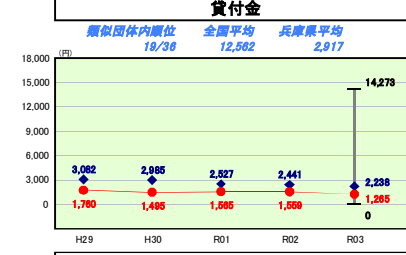
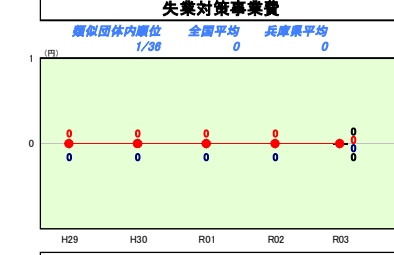
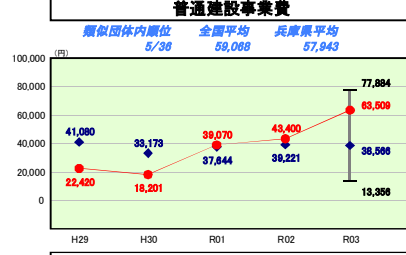
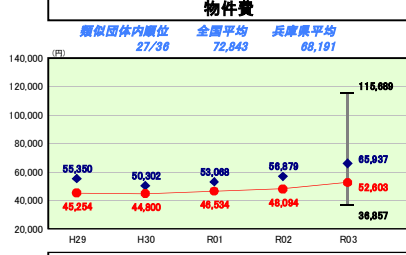
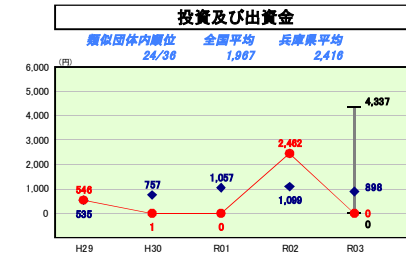
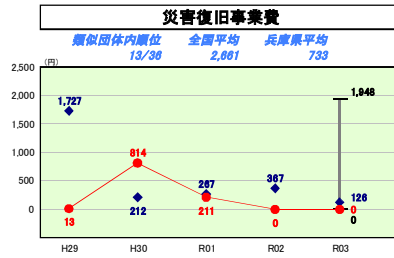
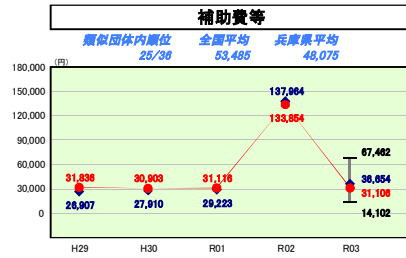
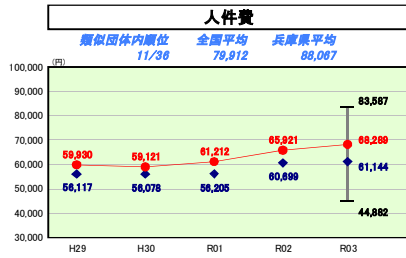
令和3年度

兵庫県伊丹市

人口	202,978 人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	199,947 人(R4.1.1現在)	通算実質赤字比率	- %
面積	25.00 km ²	実質公債費比率	4.5 %
歳入総額	96,044,530 千円	得率	- %
歳出総額	93,970,500 千円	市町村類型	H29 IV-3 H30 IV-3 R01 IV-3
実質収支	1,105,013 千円	(年度毎)	R02 IV-3 R03 IV-3
標準財政規模	44,761,494 千円		
地方債現在高	64,467,284 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



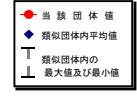
性質別歳出の分析
 歳出決算総額の住民一人当たりの金額は、462,959円となる。主な構成項目である扶助費は一人当たり141,237円となり、年々増加している。主な増加要因は、子育て世帯臨時特別給付金・住民税非課税世帯等臨時特別給付金等の増による一時的なものではあるものの、障害福祉サービス費や保育所保育委託料等も増加しているため、今後も引き続き増加していくものと分析している。
 令和2年度と比較して最も増加した普通建設事業費については、新庁舎等整備事業、美術館整備事業、認定こども園整備事業等によるもの。最も減少した補助費等については、R2年度に実施された特別定額給付金の減によるもの。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

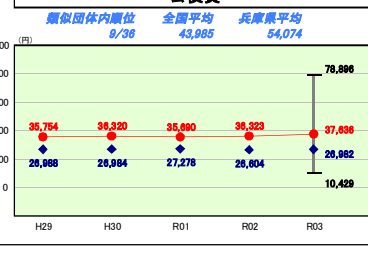
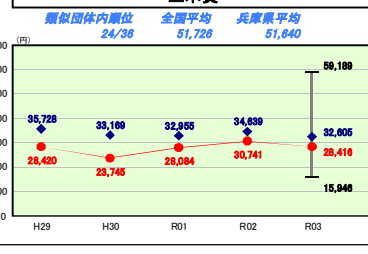
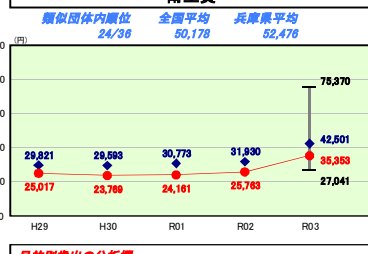
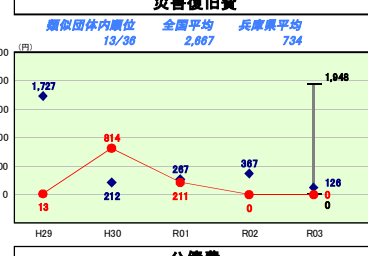
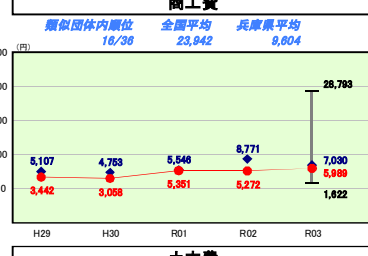
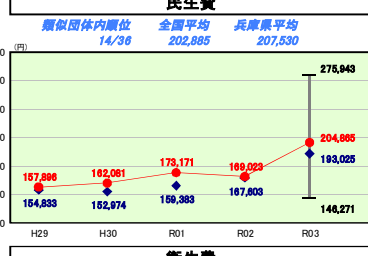
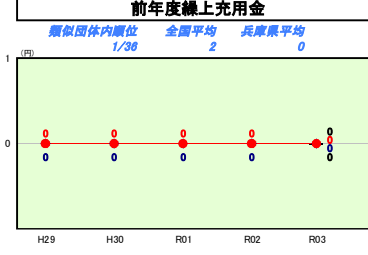
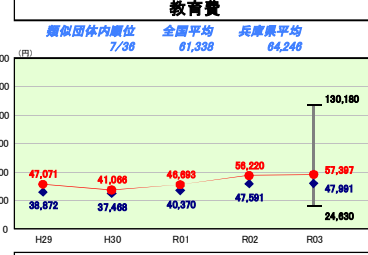
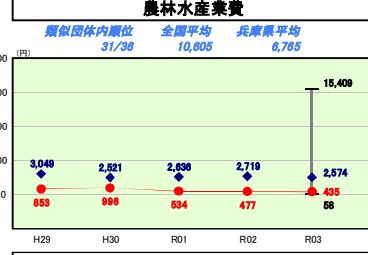
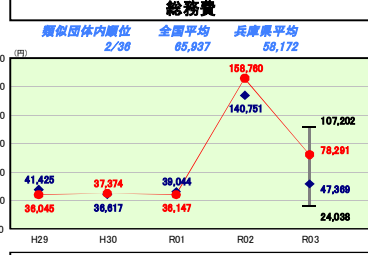
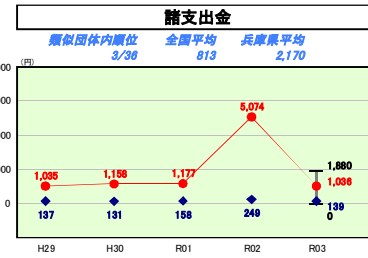
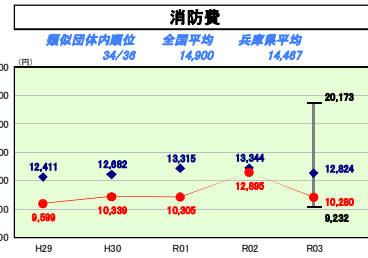
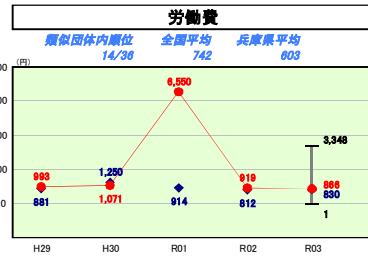
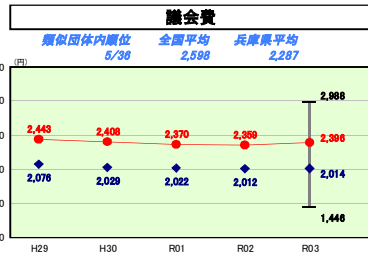
令和3年度

兵庫県伊丹市

人口	202,978人(※4.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	199,947人(※4.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
面積	25.00km ²	実質公債費比率	4.5	%
歳入総額	96,044,530千円	得未負担比率	-	%
歳出総額	93,970,500千円	市町村類型	H29 IV-3 H30 IV-3 R01 IV-3	
実質収支	1,105,013千円	(年度毎)	R02 IV-3 R03 IV-3	
標準財政規模	44,761,494千円			
地方債現在高	64,467,284千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



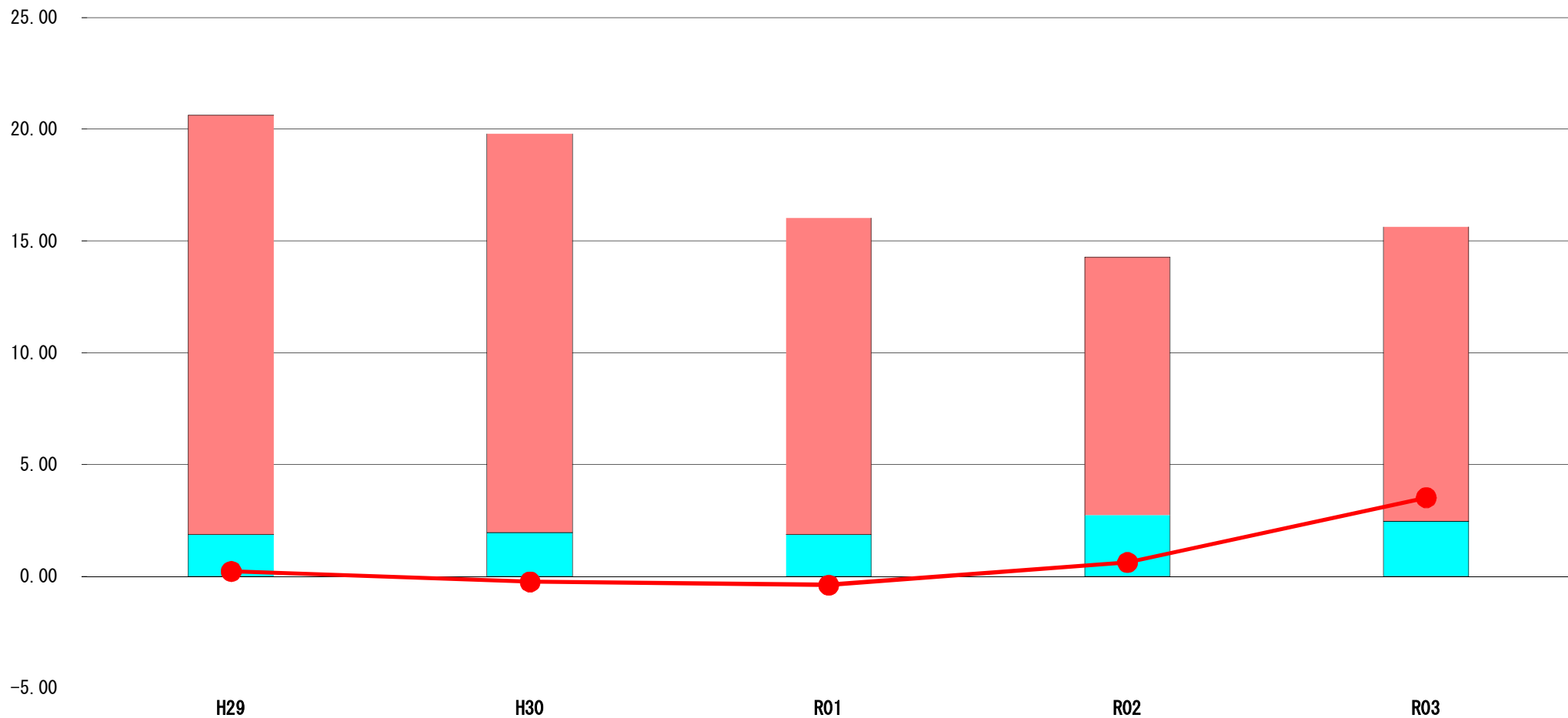
目的別歳出の分析概
 市町村合併等大きな人口変動要因がないために、目的別歳出決算の変動は主として普通建設事業費の多寡によって変動することとなる。
 令和3年度と令和2年度の比較で増減が大きいものとして、総務費・民生費・諸支出金があげられる。総務費は、令和2年度に実施した特別額給付金の大幅減によるもの、民生費は子育て世帯への臨時給付金の増等によるもの、諸支出金については、交通事業会計への補助及び出資の減によるものである。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




令和3年度

兵庫県伊丹市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H29	H30	R01	R02	R03
 財政調整基金残高		18.77	17.83	14.17	11.56	13.16
 実質収支額		1.86	1.97	1.86	2.73	2.47
 実質単年度収支		0.23	▲ 0.24	▲ 0.38	0.63	3.52

分析欄

財政調整基金残高は、新型コロナウイルス感染症対策や、幼児教育関連施策に伴う取り崩しを実施した一方、決算剰余金の積立等を行ったことにより昨年度と比較して増加した。

実質収支額は、歳入について地方交付税等が増加した一方で、歳出について扶助費、物件費、普通建設事業費が増加したことによって、実質収支額は昨年度と比較して減少した。

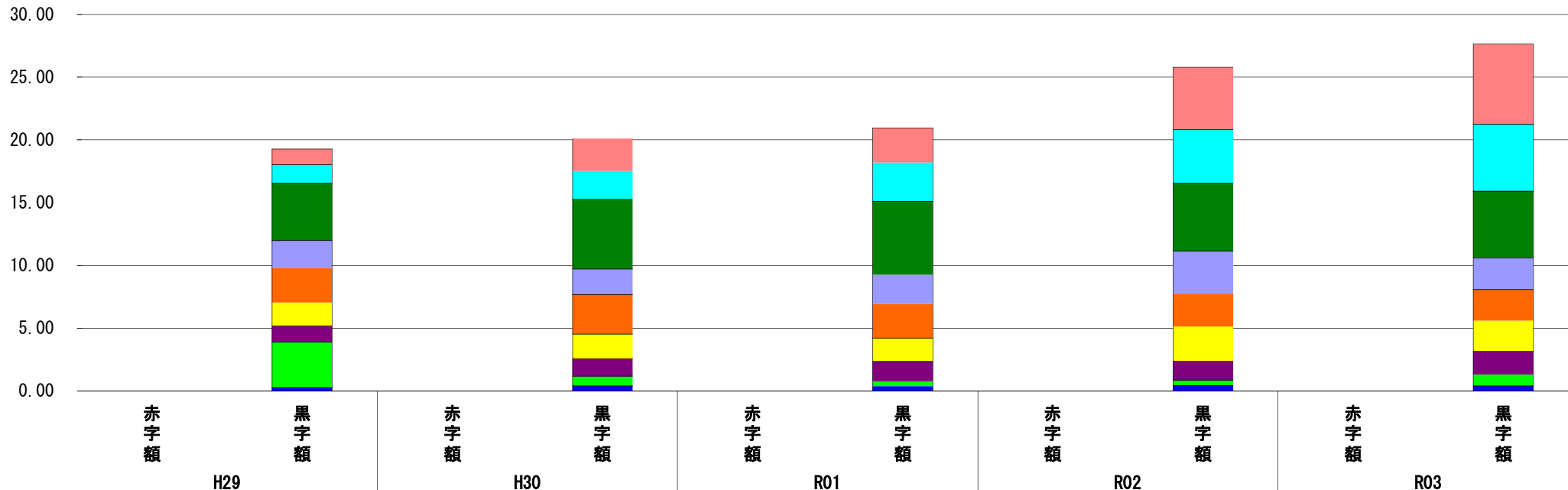
実質単年度収支については、積立金が増加したことによって昨年度と比較し

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析 (市町村)

令和3年度

兵庫県伊丹市

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

会計	年度	H29	H30	R01	R02	R03
病院事業会計		1.26	2.55	2.75	4.95	6.40
モーターボート競走事業会計		1.46	2.24	3.09	4.26	5.34
水道事業会計		4.57	5.61	5.83	5.39	5.29
交通事業会計		2.21	2.00	2.36	3.41	2.53
工業用水道事業会計		2.73	3.16	2.69	2.62	2.48
一般会計		1.85	1.96	1.86	2.72	2.46
下水道事業会計		1.29	1.40	1.60	1.55	1.82
国民健康保険事業特別会計		3.63	0.78	0.38	0.41	0.92
その他会計(赤字)		-	-	-	-	-
その他会計(黒字)		0.28	0.40	0.39	0.46	0.41

分析欄

健全化法施行以来、国民健康保険事業特別会計（以下「国保会計」）及び中心市街地駐車場特別会計の慢性的な赤字を、その他の会計の黒字で補填している構造が続いていたが、国保会計については平成24年度以降黒字決算となり、以降年々改善されているため、特別会計等の収支は着実に改善している。

令和3年度と令和2年度の比較において変動が最も大きかったものは、病院事業会計であり、新型コロナウイルス感染症重点医療機関体制整備事業に係る県費補助金の増加が主な要因と考えられる。

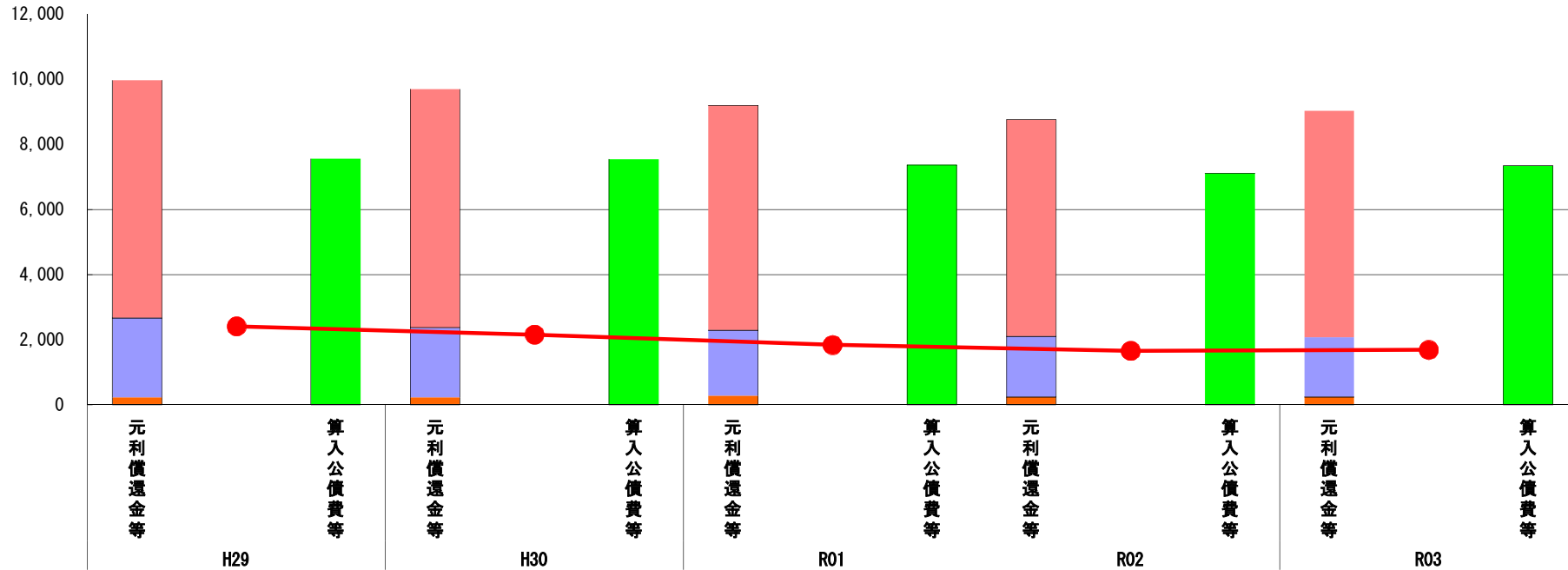
※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

兵庫県伊丹市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
元利償還金等 (A)	元利償還金		7,306	7,320	6,913	6,666	6,949
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		2,430	2,143	2,011	1,868	1,834
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		210	210	250	209	219
	債務負担行為に基づく支出額		22	19	22	24	21
	一時借入金の利息		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		7,561	7,540	7,359	7,112	7,340
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		2,407	2,152	1,837	1,655	1,683

分析欄

一般会計および公営企業における元利償還金の進捗により、実質公債費比率は、単年度・3ヵ年平均ともに減少する状況にある。

令和3年度においては、公共施設の再配置整備の実施に伴い元利償還金が増加した一方、標準財政規模や公債費充当一般財源等が増加したことにより、単年度の実質公債費比率が4.3%と改善したことなどから、3ヵ年平均における実質公債費比率も改善している。

※1 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

※2 減債基金積立状況等		年度	H28末	H29末	H30末	R01末	R02末
減債基金積立状況等	減債基金残高(注)						
	減債基金積立相当額						

分析欄

満期一括償還地方債の発行は行っていない。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

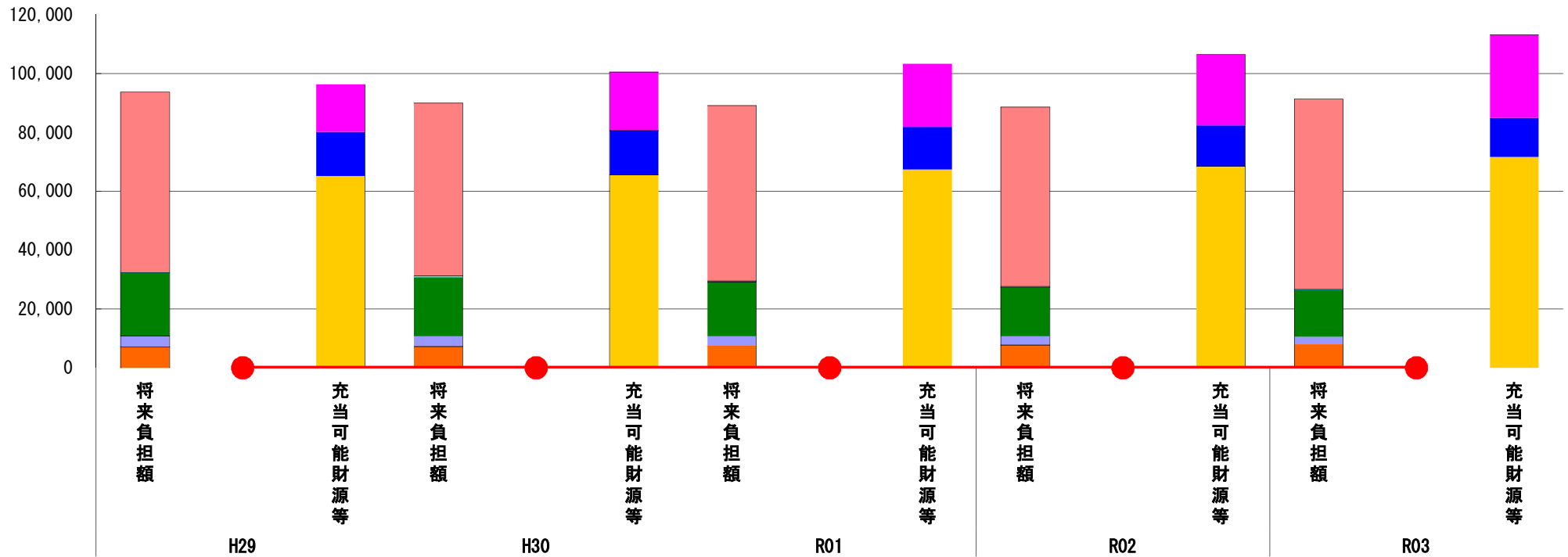
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

兵庫県伊丹市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		60,984	58,800	59,634	60,954	64,600
	債務負担行為に基づく支出予定額		325	407	389	362	341
	公営企業債等繰入見込額		21,534	19,984	18,442	16,601	15,855
	組合等負担等見込額		3,848	3,565	3,250	2,894	2,534
	退職手当負担見込額		7,021	7,212	7,486	7,813	7,972
	設立法人等の負債額等負担見込額		20	12	5	13	4
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		16,103	19,957	21,396	24,051	28,194
	充当可能特定歳入		14,984	15,008	14,447	13,945	13,334
	基準財政需要額算入見込額		65,226	65,587	67,472	68,497	71,610
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 2,581	▲ 10,572	▲ 14,110	▲ 17,858	▲ 21,833

分析欄

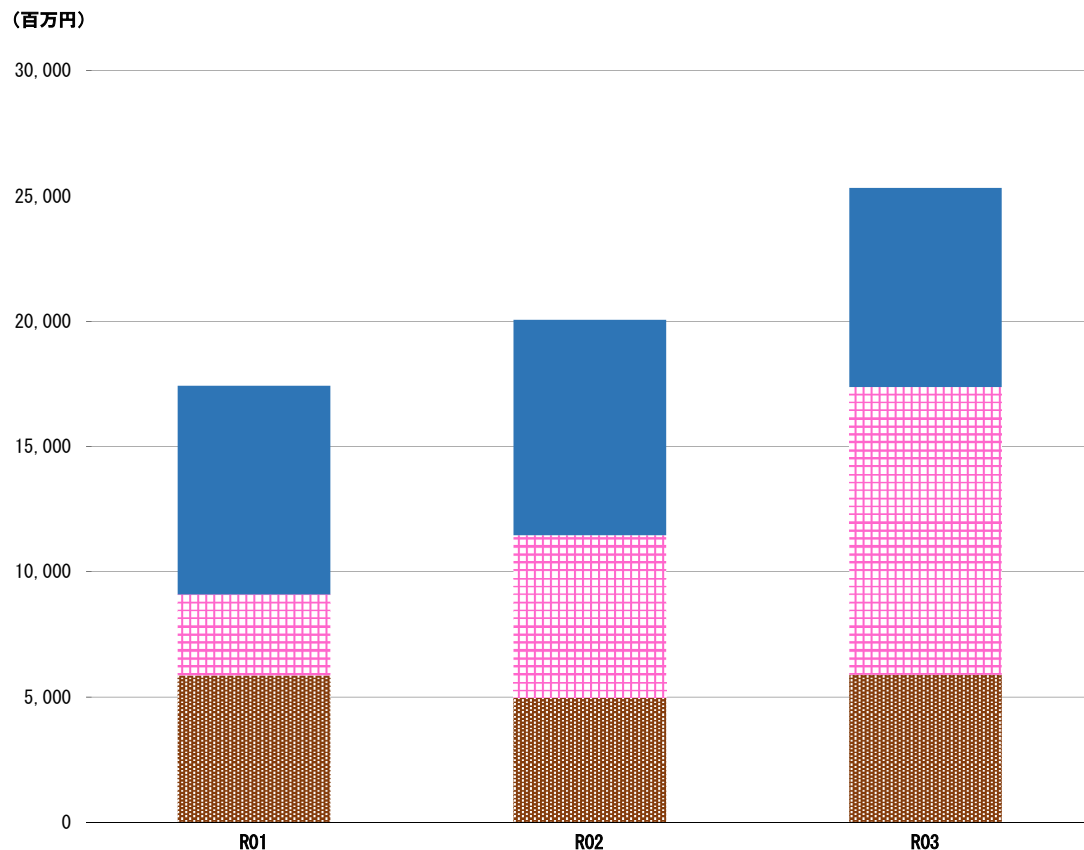
職員の新陳代謝及び公営企業における企業債償還の進捗等により、健全化法施行以降一貫して将来負担比率の分子部分については減少を続けている。

令和3年度は、新庁舎の整備や公共施設の再配置整備の実施に伴い、一般会計等に係る地方債の現在高が大幅に増加した一方で、下水道事業会計における雨水処理に係る企業債償還の進捗等により、公営企業債等繰入見込額が減少したことや、今後見込まれる公共施設の大規模改修等に備えた減債基金への積立を行ったこと等により充当可能基金が増加している。

結果、将来負担比率は一貫して改善しており、令和3年度についても前年度に引き続き該当なしとなっている。

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	R01	R02	R03
財政調整基金		5,858	4,969	5,892
減債基金		3,234	6,491	11,477
その他特定目的基金		8,335	8,596	7,956
公共施設等整備保全基金		5,192	5,046	4,100
一般職員退職手当基金		2,063	2,390	2,694
健康福祉基金		347	438	440
安全安心まちづくり基金		227	243	252
にぎわい創出基金		182	192	195
基金残高合計		17,426	20,056	25,324

令和3年度

兵庫県伊丹市

基金全体

(増減理由)

災害、急激な社会情勢の悪化、今後増加が見込まれる公共施設の再配置等に伴う公債費や改修費の増加等に備え目標を掲げ横立てを行っているため、基金残高の総額は増加傾向にある。

(今後の方針)

将来を見据えた基金の横立てを実施する一方、統合新病院の建設や公共施設の再配置等に基金の活用を考えている。今後も引き続き、行財政プラン（令和3～6年度）の基金の管理方針に基づき、適正な管理・運営を行う。

財政調整基金

(増減理由)

新型コロナウイルス感染症対策や、幼児教育関連施策に伴う取り崩しを実施した一方、決算剰余金の横立て等を行った。

(今後の方針)

行財政プラン（令和3～6年度）の基金の管理方針に基づき、標準財政規模の17～20%の範囲内で横立・取崩を行うこととしている。

ついでとも

減債基金

(増減理由)

将来の公債費に備えるため決算剰余金の横立等を実施したことにより、基金残高は増加した。

(今後の方針)

行財政プランにおいて、10年間の見込額平均（約77.0億円）を基準に横立・取崩を行うこととしている。

その他特定目的基金

(基金の用途)

公共施設の再配置や改修工事への備え等。

(増減理由)

新庁舎建設整備事業の進捗による公共施設等整備保全基金の取り崩し等によるもの

(今後の方針)

行財政プランにおいて、公共施設等整備保全基金は10年間の見込額平均（約5.6億円）を基準に、一般職員退職手当基金は30年間の見込額平均（約7.5億円）を基準に横立・取崩を行うこととしている。